

【学校の教育目標】 志を持ち 学びを生かす 庄内っ子の育成～ふるさとを愛し 平和を愛する子～

【育成を目指す資質・能力】 **基礎・基本の定着**

重点目標	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	学習指導要領が目指す資質・能力との関連		
				誰が・何を・どれくらいの頻度で	知識及び技能	力思考・表現・力判断	力学びに人間性等
基礎・基本を確実に身につける子の育成	○単元末テストの目標値(70点)に到達する児童を85%にする。(テスト結果の集約) ○「学年に応じて、家庭学習の見とり、認めを行っている」と回答する保護者を80%以上とする。(保護者アンケート)	学校	○基礎・基本の定着	○授業者は日頃から、基礎・基本事項の反復練習を十分に行い、児童に「わかった・できた」を実感させる工夫を行う。 ○授業者は単元末テストなどの後、問題と誤答を分析し、個に応じた補充学習を行う。 ○授業者は毎時間、教材提示と「課題」設定の工夫をし、学習の終末で視点を明確にした振り返りを行う。	○		○
		学校	○家庭学習の習慣化	○学級担任及び授業者は、連絡帳と漢字ノート、算数ドリルノートなどに、毎日認め(サイン)の枠をスタンプし、保護者や子どもに認めをすることを意識づける。	○		
		家庭		○保護者は、「西庄内小学校 家庭学習の約束」をもとに、学年に応じた宿題の見とりを毎日行い、認め(サイン)を必ずする。	○		
主体的に考え表現できる子の育成	○「友だちがわかるように自分の考えが伝えられた」肯定する児童を80%以上にする。(児童アンケート) ↓ ○「友だちの話を聴き、友だちの考えがわかった」肯定する児童を85%以上にする。(児童アンケート) ○「友だちの話を聴き、必ず反応を返すことができた」肯定する児童を85%以上にする。(児童アンケート) ○「メディアルールを守り、規則正しい生活ができる」と回答する児童を80%以上にする。(児童・保護者アンケート)	学校	○表現力を伸ばす指導	○授業者は単元の中で、子どもが自分の考えを進んで伝えたり説明したりする場を設定し、対話的に課題解決を図る。 ○授業者は、ペア・グループ等による対話的な課題解決の際に、児童が意見の交流だけに終わらないよう、必ず質問や他の考えを伝えるなどの議論できる場を設定する。			○
		学校	○メディア・コントロールの推進	○学級担任は、月に一度は子どもがメディアルールを守れたか振り返りの場を設ける。また、学期に一度メディアルールチェックを行う。 ○学級担任は、iPadの適正な使い方を児童に指導する。また、保護者にも啓発する。	○	○	
		家庭		○保護者は、子どもと話し合いながらTV・ゲーム・スマホのルールをつくとともに、それが守れているか学期に一度メディアルールチェックを行う。	○	○	
		地域	○教育支援 ○地域防災・見守り活動の強化	○CS委員は、学校と重点目標を共有し、教科・総合的な学習などの具体的な支援(GT, GTをコーディネート)を行う。 ○CS委員は、学校・児童のための環境整備、引き渡し訓練、地区での見守り活動等に参加する。			
認め合い思いやりがある子の育成	○「学校は安心できる場所だ」肯定する児童を85%以上にする。(児童アンケート) ○「自分にはよいところがあると思う」肯定する児童を75%以上にする。(児童アンケート) ○「目標をもってあきらめずに努力している」肯定する児童を75%以上にする。(児童アンケート) ○「友だちや先生が自分のいいところや頑張りを認めてくれている」肯定する児童を85%以上にする。(児童アンケート)	学校	○多様性を認め合い、どの子も安心して過ごせる学校・学級づくり	○学級担任は、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、教室環境整備や授業づくりを行う。 ○職員は、特別な支援を必要とする児童の実態を早期に把握し、組織的な支援体制を充実させるとともに、学期に一回は検証・改善を行う。 ○学級担任は、月2回以上「なかよしタイム(人間関係づくりプログラム)」に取り組む。 ○学級担任は、月に1回以上、特活の時間を中心に、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを行う。 ○担当は、学級担任等が取り組みやすいよう、人間関係づくりプログラムを中心に系統性やねらいを明確にする。	○	○	○
				○学級担任を中心に、児童に短期・長期の目標をもたせるとともに進捗状況を共有し、児童に対して「頑張り」等を認めるとともに意欲を高めたり、達成感を味あわせたりするなどの肯定的な言葉かけを行う。 ○学級担任は、重点項目の指導をし「がんばり・やさしさの木」に継続的に取り組む。			○